

米子市議会

議会報告会

**市のお金の使い方と
議会の役割について**

本日はご来場いただき、誠にありがとうございます

市議会とは

私たちの暮らしている米子を住みよいまちにするためには、市民がみんなで話し合い、どのようなことをしたらよいかを決め、それらを行っていくのが、もっとも望ましいことです。

しかし、多くの市民が一度に話し合うことは大変難しいので、市民の中から代表者を選んで話し合うことにしています。その**代表者が「市議会議員」と市長**です。

市議会は、**市議会議員が集まって、市民全体の幸福のために、どんな仕事をしたらよいかを相談して決める**ところです。

市議会議員はどうやって決めているの？

議員は、4年ごとに行われる選挙で選ばれます。議員になれるのは25歳以上、選ぶことができる人は**18歳以上の米子市民**と決まっています。

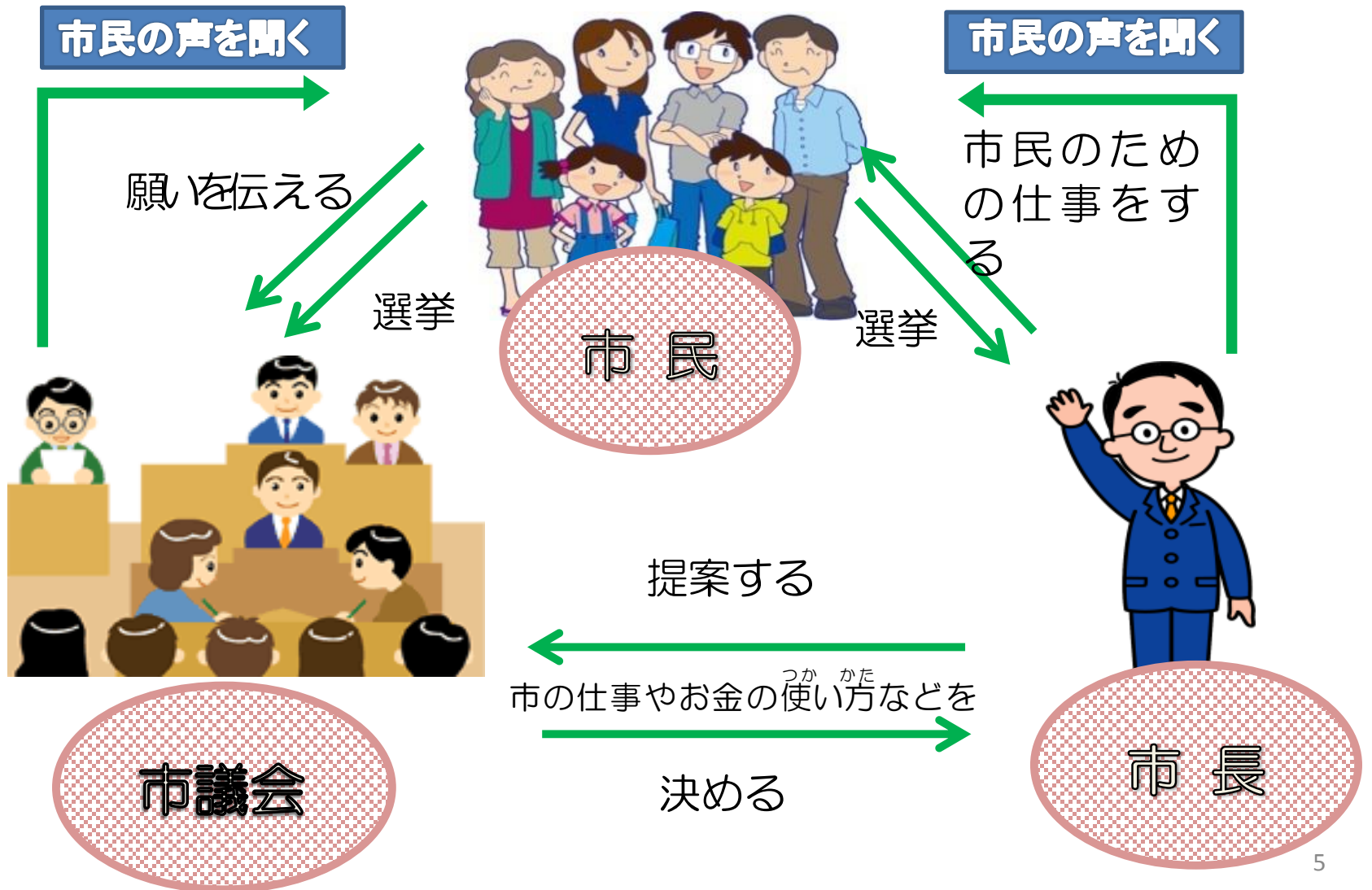
米子市の議員の数は**現在25名**。(定数は**26名**)

市議会の役割

市議会の役割は、市民に関わり、皆さんの意見や考えをまちづくりに活かしていくことで、主に、市の決まり(条例)や、市の仕事、予算(お金の使い方)を決めます。

議員と同じく、市長も選挙で選ばれた私たち市民の代表。市長が市民のためにどんな仕事をすればよいのか考えて、議員に説明し、議員は、市長が考えた計画について話し合っ、賛成するかしないかを決めます。

市民・市議会・市長の関係



議員はどうやって話し合うの？

議員みんなが集まって話し合い、ものごとを決める会議を「**本会議**」といいます。「本会議」で市民のためにどんな仕事をするのがよいか決めますが、「本会議」だけではくわしく話し合うことができません。

そこで議員は、分野ごとに何人かのグループに分かれてくわしく話し合います。そのグループのことを「**委員会**」といいます。

つぎのような「委員会」があります

- ① 議会運営委員会
- ② 総務文教委員会
- ③ 市民福祉委員会
- ④ 建設経済委員会
- ⑤ 予算決算委員会

特 別 委 員 会

必要がある場合につくられます

- ① **基地問題等調査特別委員会**
- ② **行財政改革問題等調査特別委員会**
- ③ **原子力発電・エネルギー問題等
調査特別委員会**

広報広聴委員会

議会の流れ

本会議



委員会



本会議

市民のためにどんな仕事をしたいのか、どんなことにお金を使いたいのかなどの計画を立てて、それを**議員に説明**します。議員は市長の説明を聞いて質問し、それに市長が答えます。そして、どの委員会で話し合うのかを決めます。

委員会に分かれて、さらにくわしく**説明を聞いたり質問して、計画をよく理解**します。その後、話し合っ、市長の考えた計画を行うことに**賛成するかどうか**を委員会の中で決めます。

委員長が委員会で話し合った結果を議員みんなに報告します。その報告を聞いて、議員みんなで意見を出し合い、**最終的に市長が考えた計画を行うかどうか**を多数決で決めます。

議 決 事 項

- (1) 市の法律ともいふべき**条例**を定めたり、**改正**したりすること。
- (2) 市の**予算**を定めたり、**決算**を認定すること。
- (3) 市の**税金、使用料、手数料**などを決めること。
- (4) 一定の金額以上の**工事や物件の購入の契約**をすること。
- (5) 副市長、教育委員、監査委員などの**選任に同意**すること。

予算って何？

予算は、**入ってくるお金と、出ていくお金の見積もり**（どのくらいか予想する）のことです。

予算を見れば、この1年間、どのくらいの収入（入ってくるお金）があって、何にいくら使うのかわかります。**予算は市民の意見を聞き、市長と市議会が話し合い決めています。**

しかし、**お金に限りがあるので、どれから何に使うのか、しっかり考えて決めていきます。**

決算って何？

決算は、全議員が9月議会で詳しく審議し、本会議で認定するかどうかを決めます。

決算の審議において議員から出された意見や提言などは、次々年度の予算編成に反映されていきます。

平成28年度 決算の概要



米子市のお財布事情

広報よなごより

～平成28年度決算の状況～

一般会計

平成28年度の一般会計は歳入の総額が646億1,678万円、歳出の総額が630億5,652万円となり、翌年度へ繰り越した事業を実施するための財源を除いた実質収支は12億7,778万円、黒字決算となりました。

歳入総額 646億1,678万円
前年度比17億368万円減(▲2.6%)



私たちの税金は、どんなことに使われているのかな？



差引額15億6,025万円のうち、翌年度に繰り越すべき財源は2億8,248万円でした。

歳出総額 630億5,652万円
前年度比22億5,187万円減(▲3.4%)

28.9%	市税 186億6,520万円 前年の所得や所有する土地家屋などに 応じて納めてもらう税金
23.8%	国・県支出金 153億5,674万円 国や県が必要だと認めた事業に対して 国や県から配分されるお金
14.6%	地方交付税 94億2,742万円 人口や税収などに応じて国から配分さ れるお金
12.7%	諸収入 82億 246万円 貸したお金の返済金や宝くじ助成金など
6.9%	市債 44億7,584万円 施設をつくる時などに借りるお金
5.3%	譲与税・交付金 34億2,854万円 国が徴収し市に譲与されるお金
4.3%	使用料・手数料など 27億5,470万円 ごみ処理手数料など
1.5%	繰越金 10億1,206万円 繰越事業などのためのお金
2.0%	その他 12億9,382万円 財産収入など

市民税や固定資産税の増などにより、約3億6千万円増加しました。

扶助費の増などにより、約11億6千万円増加しました。

地方消費税交付金や株式等譲渡所得割交付金の減などにより、約3億6千万円減少しました。

民生費 251億9,726万円 40.0%	子どもやお年寄り、障がいがある方などへの福祉のためのお金
総務費 90億1,159万円 14.3%	庁舎や財産の管理、戸籍の管理、税金の徴収などのためのお金
商工費 80億 557万円 12.7%	商工業・観光振興のためのお金
公債費 64億3,241万円 10.2%	借入金返済のためのお金
土木費 49億6,396万円 7.9%	道路や公園の整備など、まちづくりをするためのお金
教育費 44億2,606万円 7.0%	小中学校の施設の整備や文化の振興などのためのお金
衛生費 31億9,098万円 5.0%	健康診断や予防接種、ごみの処理などをするためのお金
農林水産業費 10億9,908万円 1.7%	農業や水産業の振興のためのお金
その他 7億2,963万円 1.2%	議会や消防団に関するお金など

平成28年度特別会計

特別会計

公営企業のような特定の事業を行なう場合には、特定の歳入を特定の歳出に充てるため、一般会計と区別して特別会計を設置しています。

会 計 名	歳 入 (A)	歳 出 (B)	対前年度比	収支差引額 (A-B)
国民健康保険事業	170億6,971万円	171億5,521万円	▲4.2%	▲8,550万円
住宅資金貸付事業	673万円	1億8,590万円	▲3.2%	▲1億7,917万円
土地取得事業	5,678万円	5,678万円	▲88.5%	0円
下水道事業	64億460万円	60億9,209万円	0.4%	3億1,251万円
駐車場事業	7,559万円	6億3,797万円	▲9.8%	▲5億6,238万円
農業集落排水事業	7億1,293万円	7億1,009万円	5.3%	284万円
市営墓地事業	2,706万円	1,871万円	▲0.5%	835万円
介護保険事業	141億6,655万円	136億1,388万円	▲0.6%	5億5,267万円
後期高齢者医療	16億7,086万円	16億6,555万円	3.4%	531万円

米子市の財政指数

広報よなごより

(普通会計ベース)

経常収支比率(%)

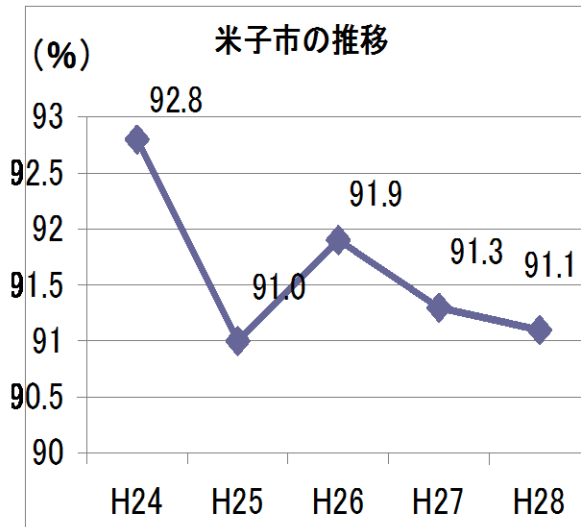
低	鳥取市	87.9
↑	類似団体平均	89.7
	米子市	91.1
	境港市	93.5
高	倉吉市	95.4

市民1人当たり基金現在高(円)

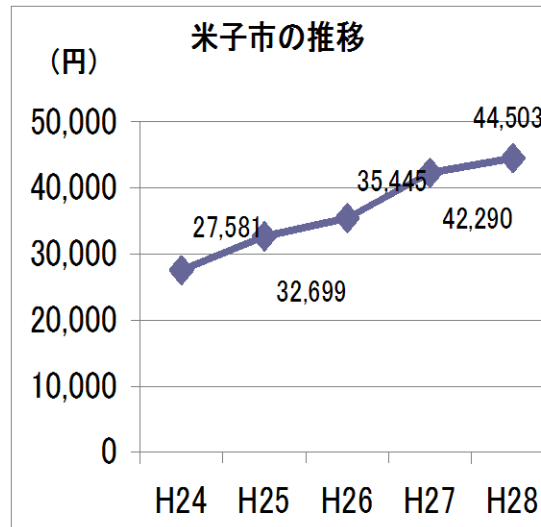
多	境港市	118,081
↑	類似団体平均	115,282
	倉吉市	106,629
	鳥取市	81,040
少	米子市	44,503

市民1人当たり市債残高(円)

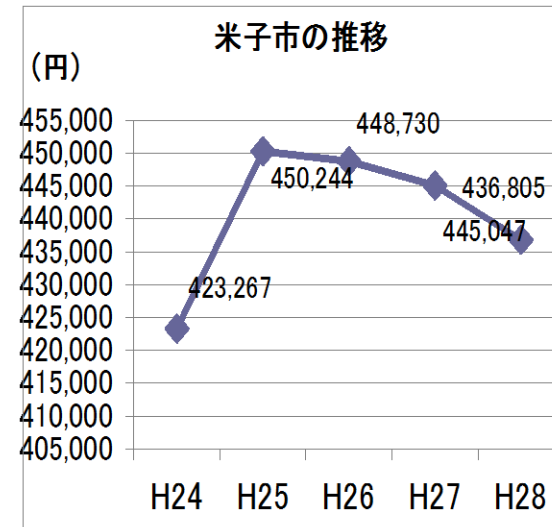
少	境港市	361,915
↑	米子市	436,805
	類似団体平均	458,682
	鳥取市	508,990
多	倉吉市	651,189



お金が義務的な経費などにどれだけ充てられているかを示す割合です。比率が低いほど施策に使える財源が多いといえます。



市民1人当たりの基金(一般家庭でいうところの貯金)現在高です。



市民1人当たりの市債(一般家庭でいうところの借金)残高です。

財政力指数

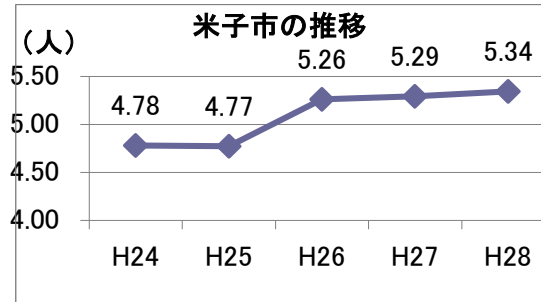
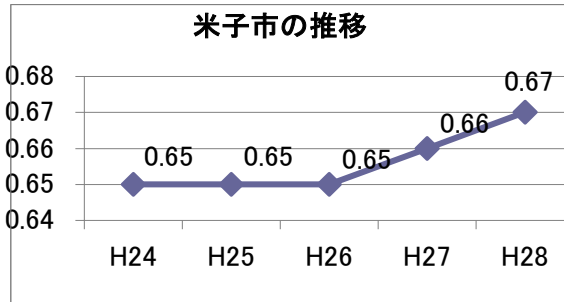
高	米子市	0.67
	類似団体平均	0.62
	境港市	0.53
	鳥取市	0.52
低	倉吉市	0.44

人口1,000人当たりの職員数

少	米子市	5.34
	鳥取市	6.06
	境港市	6.45
	類似団体平均	6.98
多	倉吉市	7.58

◆ 普通会計とは…

全国の市町村と比較できるように、統一的な基準に基づいた会計区分のことで、米子市の場合は、「一般会計」に「市営墓地事業特別会計」をはじめとする3つの特別会計と「駐車場事業特別会計のうちの駐輪場部分」を合わせた会計をいいます。



地方公共団体の財政力を示す指数で、高いほど普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえます。指数が1を超える地方公共団体は普通交付税の不交付団体となります。

※普通交付税…地方交付税の主体をなすもので、各地方公共団体の標準的な財政需要に対して財政収入が不足する場合に、その財源不足額を一定の方法によって算定し、交付するものです。

人口1,000人当たりの職員数(特別職を除く)で、この指標を類似団体と比較することで職員数の適正度をみることができます。

なお、数値の上昇は、保育士の確保のため任期付職員を採用したことによるものです。

もう少し、貯金を増やしたいな



広報よなごより

類似団体とは…

全国の市町村を「人口」、「産業構造」の2要素の組合せによって類型ごとに分類したもので、米子市(平成27年度国勢調査149,313人)は人口10万人~15万人までで、第2次産業と第3次産業の合計が90%未満(うち第3次産業が55%以上)のタイプの都市になります。

なお、今回の比較では、類似団体の中からさらに面積が類似する団体(16団体)を選びました。

※ 類似団体平均の数値は、平成28年度地方財政状況調査をもとに算出した速報値(平成29年8月31日現在)です。

平成28年度事業の主な成果

① 無線放送施設整備事業

(防災無線のデジタル化) 28年度の決算額277,319千円

② 米子駅南北自由通路等整備事業

28年度の決算額118,592千円

③ 医療助成

28年度の決算額は全体で971,163千円
(高校生への拡充部分は約7千万円)

④ 中学校の耐震化・大規模改修事業

28年度の決算額は後藤ヶ丘中が848,539千円、中学校武道場のつり天井耐震補強が28,962千円 (小学校の躯体の耐震化は27年度で完了)

決算についての指摘事項

審査の結果、大変厳しい財政状況を踏まえながら、米子市の将来と住民生活に責任を持つ行政運営上、特に重点的かつ早急な対応と改善を要すると思われる事項に関して、委員会において指摘された点については以下のとおり

自主防災組織育成事業について

本市の自主防災組織の結成率は県内19市町村で最下位である。結成率向上に向け、自主防災組織と常備消防・消防団の役割分担を明確にし、わかりやすい自助・共助・公助のイメージができるような市民への啓発を図られたい。

また、未結成自治会に対しては、地域防災の必要性を感じながらも、組織化への踏み込みが難しいという現実があることも意識し、丁寧な説明と支援体制を構築されたい。あわせて、自主防災組織結成時のサポートと休眠状態にある既存組織の活性化に取り組まれたい。

生活路線運行対策事業について

路線バスの運行において、かかる経費に対する収入の不足を助成することにより路線を維持することとバス事業者の自立を図ることとしているが、この2つの目的を両立させ、現行の生活交通路線を維持することは現行制度では困難と考えられる。

利便性向上策や路線経路等の見直しによる利用拡大に加え、単に路線の赤字補填とならない運行助成策を検討されたい。

「先端医療創造都市よなご」

情報発信事業について

鳥取大学の先端医療を核として、他市に比較して医療機関が充実しているという本市の誇るべき生活基盤であることを広く情報発信し、移住定住を促進することに取り組まれている。

しかしながら、本市が誇る医療環境の充実度を実際にこの地に住む市民が再認識する取り組みが不足している。本市の魅力の発信には市民からの発信が最も強力であるため、**市民に対する取り組みを強化されたい。**

公民館運営について

公民館は地域住民のさまざまな活動において重要な拠点施設である。しかしながら、現状は社会教育法に基づく生涯学習以外に、自治会活動のほか、多くの地域住民生活に必要な活動が行われている実態から、住民が公民館職員に求めている職務内容に対し、現行の人的配置が応えきれない状況にある。

地域コミュニティの拠点施設である公民館の今後のあり方を見据え、**公民館のあるべき姿の再構築につながるよう職員の職務内容の精査と人的配置について検討されたい。**

国民健康保険事業特別会計 繰出金(財政安定化)について

平成28年度は単年度で約2億8,000万円の黒字決算であったが、累積赤字を繰上充用していたため、最終的に約8,500万円の赤字決算となった。さらに、この決算額については、2,000万円の法定外繰り入れを行い、残額を新年度予算から繰上充用している。このように、繰上充用による対応が常態化している。

平成30年度に国保が県単位の広域化となることから、今後、赤字決算となった場合は、法定外繰り入れなどにより収支の均衡を図られたい。

保育所支援体制整備事業について

**対象者数・対象園数が不明朗であり、
研修内容についても見えにくい。**

**保育業務の安心・安全の確保の観点から、
研修内容を充実させ保育士のスキル
アップを図るべきであり、同事業の拡充
に努められたい。**

がん検診事業について

本市以外の鳥取県西部の市町村では年度末まで受診できるところが多いが、本市においては7月から12月までの期間で実施しているため、この期間を過ぎると他市町村の方は受診できても米子市民は受診を断られるという状況がある。

今後、**受診率の向上に向けて、受診期間の延長、受診方法等、適正な受診のあり方について検討されたい。**

予算の執行状況について

平成28年度の土木費において、主に社会資本整備総合交付金など国の交付金の財源確保ができなかったことが要因で、7億6,604万円もの多額の不足額が発生し、各事業の進捗に大きな影響を及ぼしている。については、**予算の財源確保には万全を期されたい。**

また、財源確保ができず、当初予算での事業が見込まれない場合は、**不用額として処理をせず、適宜、減額補正などを行い、適切な予算の調製に努められたい。**

駐輪場管理事業及び駅前放置 自転車等防止事業について

いずれも長期にわたって事業を実施されているが、その成果は十分な状況にあるとは認められない。

現在、米子駅周辺のまちづくりについては、JR、県との三者協議の場が設けられており、庁内においても「米子がい～な！」総合戦略推進事業の中で、**自転車の活用の推進に関する調査・研究**が行われている。これらを生かすことで、**事業の基本方向である「機能的で持続可能な都市環境づくり」**に立ち返り、**駅周辺のまちづくりに寄与し得るよう、事業の再検討を**図られたい。

市道安倍三柳線改良事業について

財源である社会資本整備総合交付金の確保が困難であったため、予算の執行率は3割程度にとどまり、事業の進捗が図られていない。

事業完成年度にも遅れが生じていることから、地元住民に対し事業計画を説明するとともに、一般財源の充当や起債、他の交付金の活用などの財源確保に努め、事業の進捗を図られたい。

市営住宅の管理について

平成28年度末の政策空き家を除く空き家は65戸と多い状況にある。

入居申込者数が多い現状や財産管理の観点からも、**早急に空き家の修繕を行い、より多くの住宅の供給に努められたい。**

また、**用途廃止を計画している市営住宅については、その実施に向け、職員体制を強化されたい。**

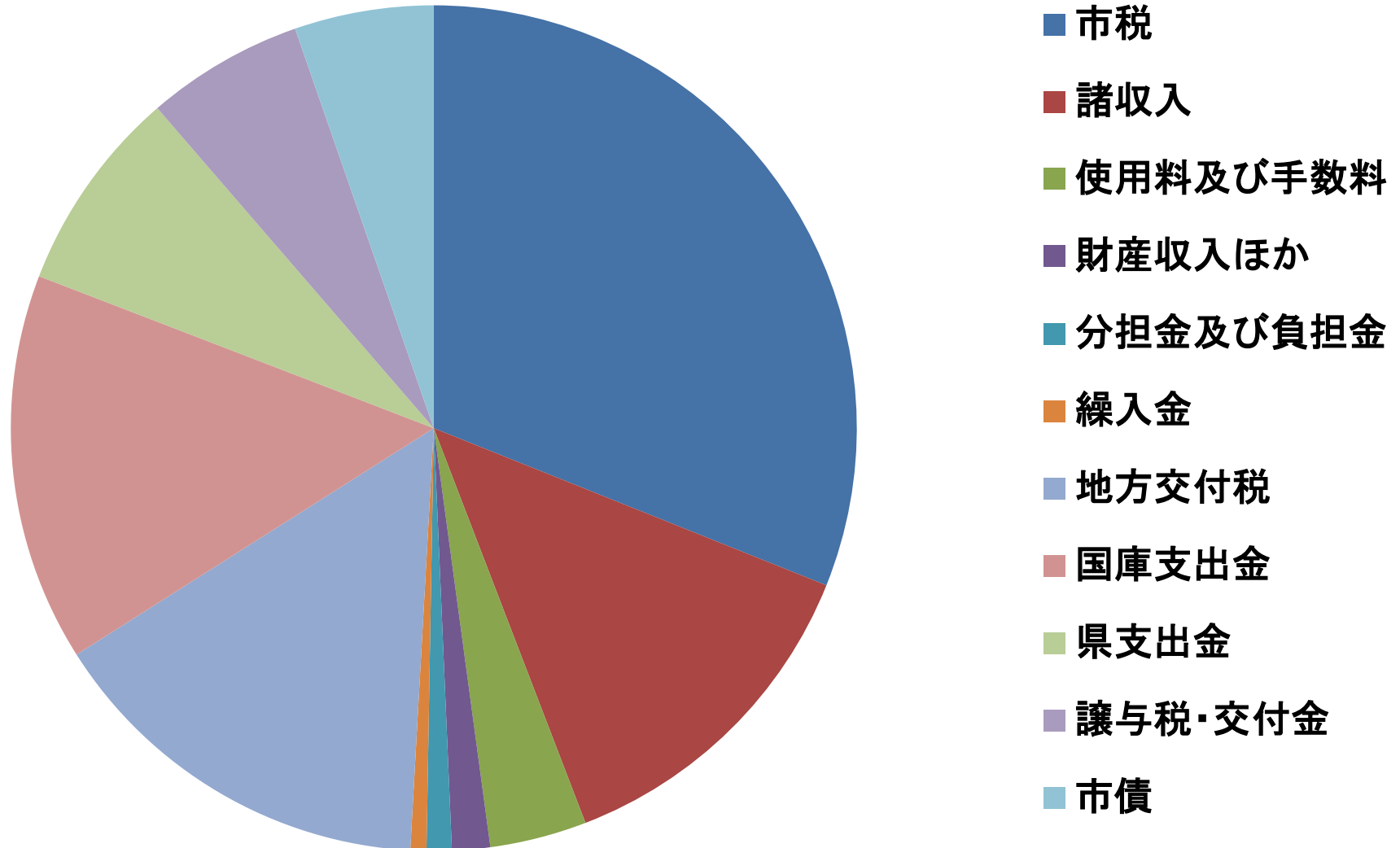
危険家屋対策事業について

地元住民からの再三の要望にもかかわらず未解決のまま長期に及んでいる案件が存在しており、環境衛生面にとどまらず、危険性においても深刻度が増している実態がある。

その中には、所有者に経済的余裕があると思われるにもかかわらず、危険の回避に対する助言・勧告に応じてこなかった案件も存在していることから、今後、**空家等対策の推進に関する特別措置法に基づいた対策計画の策定に入ることと並行し、悪質と判断される所有者に対しては、名実共に勧告・命令まで踏み込んだ危険家屋対策を講じられたい。**

平成29年度当初予算

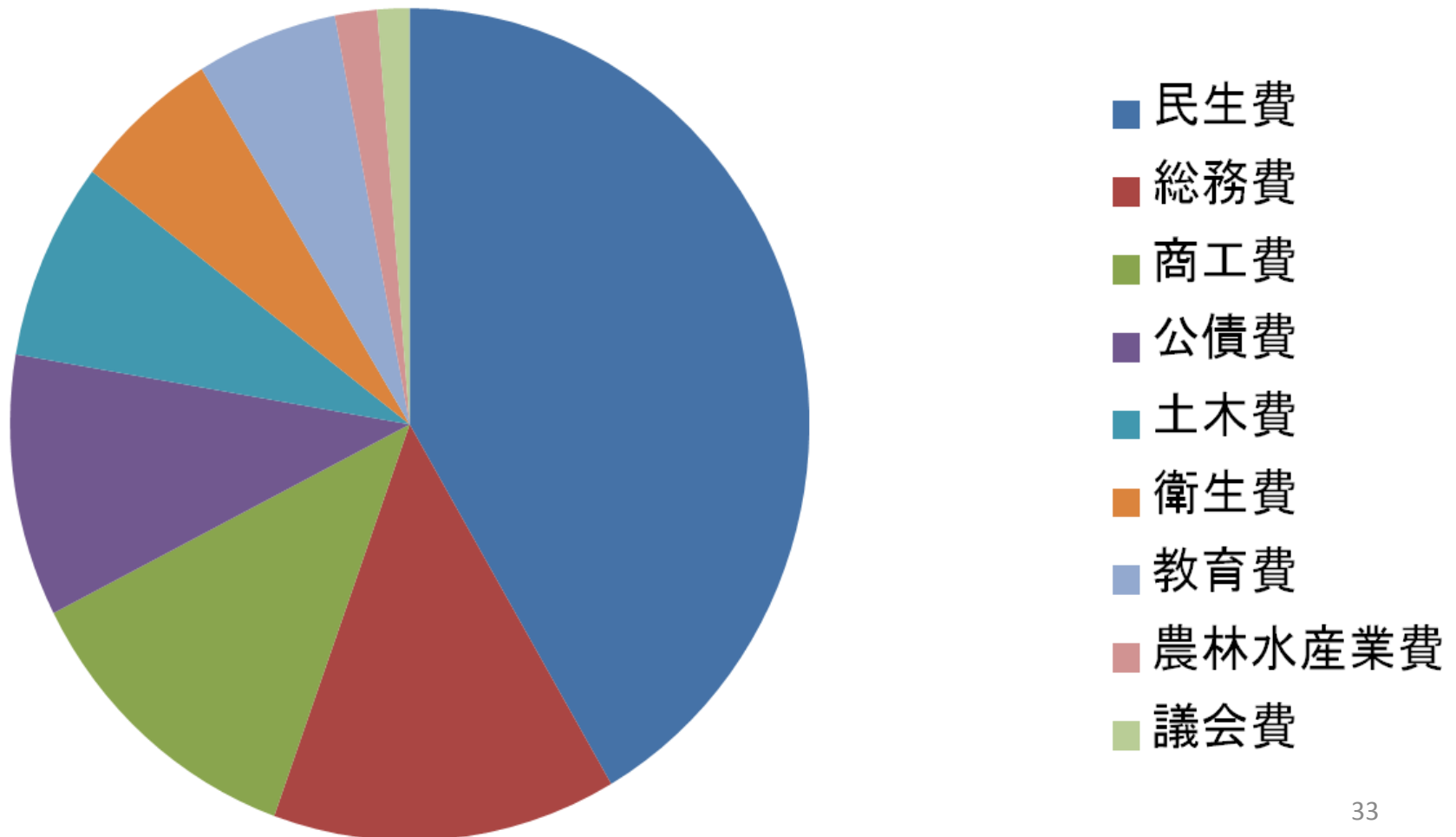
平成29年度予算 歳入



平成29年度のお金の使い道

592億1500万円

平成29年度予算 歳出



平成29年度 主な施策

① 米子インター周辺工業用地整備事業

29年度予算額は481,700千円

② 和田浜工業団地整備事業

29年度予算額は42,893千円

③ クリーンセンター長寿命化事業

(基幹的設備改良工事) 29年度予算額は1,546,830千円

④ 保育所等整備事業

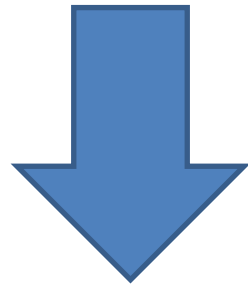
29年度予算額は当初予算、6月合計で予算額は529,425千円

⑤ 放課後児童クラブ施設整備事業

29年度予算額は当初予算、6月、9月合計で50,582千円

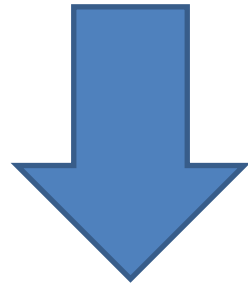
予算に対しての意見 (審査報告)

市有財産の管理費に関して



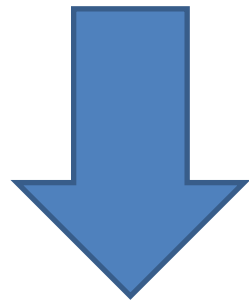
行政サービスを提供しない財産については、**売却など活用方法の検討を行い、維持管理費の抑制を図られたい**

教育費について



**子どもたちの学習環境の整備のため、
当初予算で充実を図るべきである**

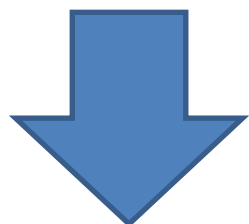
経済部関係の予算に関して



事業実施に当たっての見込みが甘い予算が見受けられていることから、**厳密に**すべきである

商工事業振興資金貸付

事業について

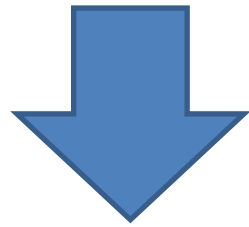


事業規模が大きくなりつつあり、財源の調達等を含めて従来の在り方は再考すべきである。

特別会計での編成を検討していくべきである。

市道安倍三柳線改良

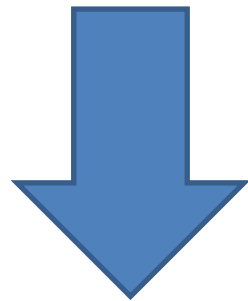
事業について



今後の予算執行に当たっては、社会資本整備総合交付金を確保できなかった場合、**他の財源を充当してでも執行すべきである。**

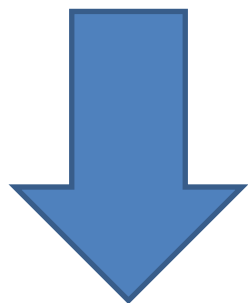
米子市国民健康保険

事業について



累積赤字の解消を図る必要がある。
解消が図られない場合でも法定外
繰入等の適切な判断をすべきである。

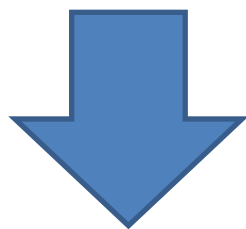
保育所等整備事業及び 小規模保育施設整備事業に関して



保育施設は地域によって需要にはばらつきがあり、保育士不足の現状もある。**実態を把握**するべきである。

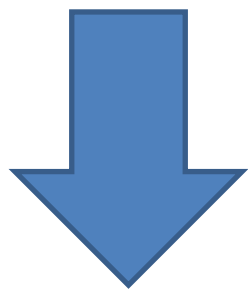
農業関連施設維持管理

事業について



市が施設を所有し、維持管理を行うのではなく、地元が管理を行うよう**施設の移譲に向けた検討**をすべきである。

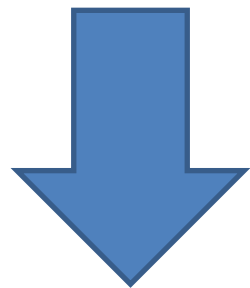
地籍調査事業について



本市は全国に比べ進捗率が低い状況である。**体制整備も含め進捗を図るべきである。**

特定防衛施設周辺整備

調整交付金事業について



本交付金を活用する事業の検討の際、対象区域を限定することなく広く検討を図るべきである。

ご清聴ありがとうございました

